

原発事故 生々しく

震災直後の「福島民報」



寄贈された2011年3月の「福島民報」＝松江市西津田6丁目

松江の会社、中央図書館に寄贈

東日本大震災直後の福島県の様子を克明に伝える地元紙「福島民報」が、松江

市立中央図書館（西津田6丁目）に寄贈された。カウンターで申し込めば閲覧で

き、コピーをすることもできる。

閲覧できるのは、震災発生翌日の2011年3月12日付から4月22日付の新聞。小松電機産業（松江市乃木福富町）が寄贈した。

同社の上下水道管理システム「やくも水神」が、福島県内で利用されていることから、小松昭夫社長らが震災後の4月末に視察。地元の人から新聞を託され、震災4年をきっかけに寄贈を決めた。

図書館でも11年6月から、福島民報をはじめ被災地で発行された複数の新聞を半年〜約1年間、購入して保管している。ただ、震

災直後の新聞はなかったため、貴重な資料として閉架書庫で保管する。

紙面は、「福島第一原発で爆発」（3月13日付）、

「県民12万人避難」（14日付）、「原発3号機も爆発」（15日付）などと原発事故を生々しく伝えている。

小松社長は「松江の人が原発に対して、もっと当事者意識を持つきっかけになれば」としている。

（宮野拓也）